中国山東省派遣レポート

山口大学　国際総合科学部２年

１．参加目的

今回のプログラムに参加した目的としては、中国の歴史や文化に強い関心を抱いており、特に高校時代に学んだ中国史の深遠な魅力に感銘を受けました。その長い歴史と豊かな文化に触れることで、中国への関心が一層深まりました。また、中国は人口が多く、多様な人々との交流が日常的にあります。異なる背景や考え方に触れることで、異文化理解を深めたいと考えています。さらに、中国語の習得にも大きな意欲を抱いています。山口県には数々の観光地であり、多くの中国人も訪れることから、中国語を身につけ、地域の観光業界に貢献したいと思っています。観光客へのおもてなしやサービス向上に貢献し、地域の発展に寄与したいと考えています。中国は歴史的にも文化的にも非常に豊かな国であり、その魅力に触れることで自身の視野を広げ、異文化理解を深めることができると信じ、参加を決意しました。

また私は、今年の８月から１年間の北京への留学を控えており、その前に中国を訪れたいと思っていました。この研修プログラムに参加し、長期留学前に実際に中国に触れる機会を得たいという思いがありました。また、大学で出会った留学生の友人の地元でもある自然豊かな場所にも興味があり、参加を希望しま

した。

２．活動内容

研修１日目のはじめの活動は、海信集団国際センターの見学をしました。ここは中国国内に広く普及する家電製品を製造する会社であり、会社の歴史、様々な国との提携など企業の取り組みについて学びました。その後、青島市の特産物であり、日本でも有名な青島ビールの博物館を訪れました。ここでは、青島ビールの製造過程を詳しく学び、ビールの試飲もありました。緻密な製造過程を知ることでさらに美味しく感じ、お土産にビールを買う人もいました。

研修２日目は大明湖に訪問しました。ここでは湖、蓮の花を見ながら歩き、山東省の歴史を感じることができました。その後、山東省手作り体験展示センターを訪れ、山東省各地の名産を知り、お土産を買う方も多くいました。またこの日は山東省で１番の山東大学で講義を受けたのち、学生との交流活動がありました。現地の学生との交流では、言語が異なる中でも通じ合えるものがありとても刺激的な体験となりました。

研修３日目は泰安市の泰山に登りました。ここではロープウェイで上ったのち、歩いて頂上までたどり着きました。長い階段が続き、頂上までの道のりが長く感じられましたが、頂上から見渡す景色はこれまで見た景色の中で一番感動的でした。その後、尼山聖境という孔子の故郷を訪れました。ここでは巨大な孔

子像や大学堂の見学をした後、孔子の生涯を表現した演劇を見ることができました。孔子の故郷である山東省では、様々な地域で孔子の歴史に触れることができますが、この場所は孔子が幼いころを過ごした場所であるということもあり、一番孔子の存在を身近に感じられたような感覚になりました。

研修４日目は曲阜市の師範大学を訪れ、教師という職業の歴史を学び、その後現地の学生と関わりここでも刺激を受けることができました。その後は中国で有名な食品会社の見学に行きました。ここでは、小麦粉や油などを生産しており、国内外に向けた企業の取り組みを知ることができました。そして、宿泊場所でもある曲阜中華優秀伝統文化国際見学営地に移動し、ここでは弓の体験をしました。弓の技術だけでなく、精神力も必要であるこの体験は自身の心を向き合う貴重な機会となりました。

そして研修最終日は、世界文化遺産である孔府、孔子りょうを訪れました。ここでは、中国全体の歴史を学ぶとともに中国史にどのように孔子の影響があるかを学ぶことができました。

今回のプログラムでは、孔子にまつわる歴史的な場所を訪れたり、夜の空いた時間には地元に観光もしました。刺激を受ける瞬間が多くあり、とてもよい経験をさせてもらうことができました。

３．参加した感想、気づき

今回のプログラムに参加した感想をまとめると、以下のような点が印象に残りました。まずは、中国、山東省の文化の豊かさです。 山東省は中国の歴史と文化が深く根付いている場所であり、特に孔子の故郷として知られています。孔廟や孔府、尼山聖境などを訪れたことで、儒教の思想や歴史について深く学ぶことができました。

また、現地の人々は非常に親切で温かく迎えてくれました。日常的な交流を通じて、山東省の人々の生活や価値観を理解することができ、非常に貴重な経験となりました。

そして、豊かな食文化に触れることもできました。山東料理は中国の四大料理の一つとして有名で、独特の風味や調理法を持っています。毎日、非常に豪華な食事をご準備いただき、特に、山東料理の代表的な料理である「餃子」や「煮魚」などを現地で味わうことができ、その豊かな食文化に感動しました。

また、山東省の自然豊かな風景には特に心を動かされました。泰山などの名所を訪れ、その壮大な自然に圧倒されました。特に泰山からの景色は、これまで見た風景の中で最も感動的でありました。泰山の登山では自然の美しさを感じ、自分自身の体力を試す良い機会となりました。

全体として、山東省への派遣は非常に充実したもので、多くの学びと感動を得ることができました。中国の歴史や文化、現地の人々との交流を通じて、視野が

広がり、自分自身の成長にも繋がる貴重な経験でした。

今回の派遣で現地の人々との関わりを通して、異文化コミュニケーションの在り方について改めて考え直す機会が多くありました。まずは、非言語コミュニケーションの重要性です。言葉の壁がある中で、表情やジェスチャー、視線などの非言語コミュニケーションが非常に重要であることを実感しました。笑顔やうなずきなど、相手の気持ちを理解しようとする姿勢が、信頼関係を築く上で非常に有効だと感じました。

また言語の壁がある中では、自分自身の力だけではどうにもならない状況もあるため、周りの人の力をかりたり、翻訳機などのツールを利用するといった柔軟性が必要であることを実感しました。異文化コミュニケーションでは、予期しない状況や違いに直面することが多いため、その際に柔軟に対応し、適応する力が求められました。自分の考えや価値観に固執せず、相手の文化や習慣を尊重する姿勢が大切だと感じました。

これらの経験を通じて、異文化コミュニケーションは単に言語の問題ではなく、相手を理解し、尊重する姿勢や態度が非常に重要であることを学びました。この学びは今後の留学や仕事においても大いに役立つと感じています。

また、異文化コミュニケーションの中で、自分にとっての当たり前と相手にとっての当たり前が必ずしも合意するとは限らないという点についても多くの学

びがありました。まず、 コミュニケーションのスタイルが大きく異なっていると感じました。例えば、日本では間接的な表現や曖昧さが好まれることが多いですが、他の文化ではより直接的な表現が普通とされることがあります。こうした違いを理解し、適応することが重要だと感じました。また異文化交流を楽しむためには、その国の文化について調べることや最低限の語学力が重要であるということを強く感じました。

異文化交流を楽しむためには、その国の文化や歴史について事前に調べることが非常に役立ちます。例えば、習慣やマナー、価値観について知識を持つことで、相手の行動や言動に対する理解が深まり、誤解や摩擦を避けることができます。また、現地の名所や伝統行事について知っていると、話題が豊富になり、会話が弾むこともあります。

また、最低限の語学力があると、現地の人々とのコミュニケーションが円滑になります。挨拶や基本的な会話ができるだけでも、相手に対する敬意や興味を示すことができ、好意的に受け入れられることが多いです。また、現地の言葉を学ぶことで、文化や習慣をより深く理解することができます。実際に現地での買い物の最中に、お店の人に話かけられた際に言語を理解することができずコミュニケーションがとれなかったため、退店を求められる経験をした。このような状況のときに、相手や自分に対してマイナスの感情を抱くのではなく、自身の成長

の糧にしようとする心構えが大切であると強く感じた。これらの点を踏まえて、異文化交流を楽しむためには、その国の文化について事前に調べることや最低限の語学力を身につけることが非常に重要であると感じました。

４．今後どのように役立てていくか

今回のプログラムに参加した経験を今後どのように役立てていくかについていくつか考えました。まずは語学力の向上を目指します。今回の経験は、自身の語学力の向上に向けたモチベーションとなりました。現地での語学力をさらに磨くために、継続的に言語学習を行います。具体的には、中国語の学習を続け、まずは日常会話に対応できるようになることを目指します。そして、現地の人々との交流を行い、より深い異国理解に努めたいです。また、他の言語にも挑戦し、国際的なコミュニケーション能力を向上させます。

次に人脈の活用です。今回のプログラムに参加したことで中国に興味を持つ大学生との交流ができました。また現地の大学生との交流の機会もありました。今回のプログラムでの縁をこれからも途切れさせないように、今後も交流を続けていくことでお互いへの理解を深めるとともに、同じ興味を持つ同士として意見交換などを行っていきたいと思います。また今回の経験をもとに、異文化理解の重要性を周囲に広めます。特に中国という国についてはマイナスな印象を抱く人が周りには多いように感じるので、自分が学んだことを共有し、他の人々

にも中国の魅力や異文化交流の重要性を伝えます。

　これらの方法を通じて、山東省への派遣で得た貴重な経験と成果を最大限に活用し、今後のキャリアや日常生活に役立てていきたいと考えています。

　今回の研修は自身の人生にとって、非常に貴重な経験となりました。このプログラムに関わってくださったすべての方々に感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。

TSINGTAO
青島啤酒
畅享欢聚时刻
Better Together

中国・山東省への青少年交流派遣団事業

山口大学国際総合科学部２年

１．　参加した目的

今回の派遣事業に参加した目的は大きく分けて二つある。1 つ目は、今年 9 月からデンマークへの 1 年間の留学をひかえており、ヨーロッパに行く前にアジアの国の文化、発展などを学びたかったからである。もう 1 つは、大学で中国から来ている交換留学生と会話をしていたときに、中国の文化や経済など、隣国でありながら知識が不足していたことに気付き、実際に中国に行くことで新たに中国を知るきっかけになると考えたからである。

２．　活動内容

大きく分けて①企業見学②博物館や史料館、文化施設見学③文化体験や現地の方々との交流があり、派遣事業の日々の中で食文化にふれた。

①　企業見学

海信集団国際センター(Hisense)；初めはテレビの事業からスタートし現在は空調整備、家電などで有名。そのほかにも、ワールドカップのスポンサーになるなど、企業知名度向上にも取り組む。

益海嘉里金龙鱼食品株式会社(Wilmer)：1988 年から事業が始まり多くの企業との連携を行い、油の製造で有名である。

② 博物館や史料館、文化施設見学

青島ビール博物館見学

100 年以上の歴史を持ち、ドイツ・日本に占領されていた歴史を持つためドイツと日本のフレーバーも含まれたビールを生産している工場である。

誰でもお酒を好む↓　　↓良いお酒であることを象徴する

大明湖・百花洲歴史文化街区見学：家々に湖、柳の木、四面に蓮の花、三面

に柳の木と言われるほどの柳の木、蓮の花が広がっている地域だった。

山東手作り展示体験センター見学・交流活動・山東大学博物館訪問・山東大学中華伝統文化研究体験基地・

世界遺産孔府・孔子廟見学：孔子が生まれた地である曲阜であり、始まりと終わりのきちんとしている孔子の歴史、功績を祀っている聖地である。

③ 文化体験や現地の方々との交流

歓迎晩餐会での山東大学学生との交流、曲阜師範大学での教師博物館の見学、曲阜中華優秀伝文化国際研学営地での文化体験を行った。

面塑作品：小麦粉を用いた作品で曲阜の文化を表現している。

今回は孔子の面塑作品を作成した。

３．　参加した感想、気づき

Hisense の取り組みの中にローマの休日をモチーフにした製品や、女性の化粧品を入れるための冷蔵庫などの開発があり、ユーザーが使ってみたいと思うようなロマンのあるコンセプトにするところに Hisense の発展の要素があるのではないかと感じた。また、smart classroom solution の一部で、北京大学をはじめとする 400 以上の大学で使われている液晶パネルの共有があったが、山口の大学にも取り入れてほしいと思うくらいの機能性とデザインが施されていた。

泰山や孔子廟などの観光地は平日でも、多くの観光客や地元の人が訪れている。このことから、過去の情報を保護し、次の世代に継承していくことで、その地域のブランドが形成され、その地域の価値があがることで、観光客が訪れやすくなったり、現地の人たちの地域への愛着が高まったりすると考えられる。私はこれまで、文化施設、文化財などは、その地域の文化を多くの人に知ってもらい、雄大な自然の景色や異世界を感じることで日常から少し離れ、観光客が自分を俯瞰視したり、自身の新たな一面を発見したりすることが大きな役割だと思っていた。しかし、今回、観光客が増えることにより、そこまで行く旅費、ホテルなどの滞在費、現地での食費や購入品など、私には見えていないお金が地域の経済を回すという大きな役割も担っていることに気付いた。

４．　派遣の成果を今後どのように役立てていくか

私は今回の派遣で異なる文化を受け入れる素養がさらに身についたと感じて

いる。それを踏まえ、今後の留学でも、他の国の文化にふれることを通じて自身のアイデンティティを考え直すとともに、日本の文化や伝統についてもう少し調べたり経験したりしようと思った。また、現地の方々や学生との交流の活動があったものの、言語が通じないことによるコミュニケーションの不足や、コミュニケーションをとる空間の改善の必要性も考えられた。これに関し、言語は自身でさらに学ぶ必要があると感じ、コミュニケーションをとる空間は、私が今後行いたい共創デザインの研究の一要素として考察に生かしたい。今回の派遣を通し、文化の継承には、人文科学・社会科学・自然科学・経済学など、多くの要素が複雑に絡み合っていると感じたので、ものごとを考えるときに複数の視点から考えてみるようにしていきたい。

帰国後レポート

中国・山東省への青少年交流団派遣事業の訪問団の一員として 6 月 24 日から 6 月 30 日までの 7 日間中国・山東省を訪れた。

1. 参加目的

中国の歴史や文化を学び、日本との違いを実際に体感し、視野を広げる。また、中国の大学生と交流し新たな価値観と向き合う。

２．活動内容

【2 日目】

Hisense（ハイセンス）
ハイセンスの歴史やどのような企業なのかについて学んだ。世界中に拠点があり、世界的に高いシェアを誇る企業なので影響力のあるブランドだということが分かった。様々な家電や電子機器を見た。最先端の技術で見たことのない画期的な電子機器や家電ばかりで興味深かった。デザインにもこだわっており、ニーズに合わせて家電が開発されていることが分かった。若い女性向けに作られた家電は小型で、デザインもかわいらしく、魅力的だった。

青島ビール博物館
青島ビールについて歴史やどのように作られているかなどを学んだ。青島ビールの歴史背景を写真や実物などで詳しく知ることができた。実際に工場が稼働している様子が見られた。昔使われていたモータなどの機械や過去デザインの青島ビール、広告、珍しいビールを見ることができた。実際にビールを飲むこともでき、初めてビールを飲んだ。飲みやすいと感じた。

【3 日目】

大明湖、百花洲歴史文化街区

中国の伝統的な建物と湖、植物の自然がありきれいな風景だった。百花洲歴史文化街区も木や花がたくさんあり自然豊かだった。

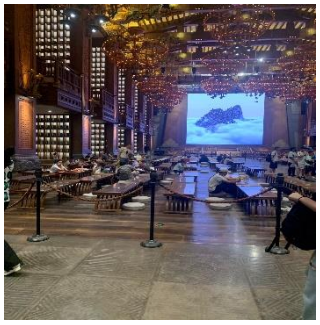
山東手作り展示体験センター
中国の伝統的な工芸品や文化が展示されている。陶磁器や漆製品、中国の有名なお店とコラボした展示品などがあった。80 年代の雰囲気を再現した内装になっていて見ているのが楽しかった。

山東大学、山東大学博物館、山東大学中華伝統文化研究体験基地
山東大学では李先生の講座を受けて、山東省や山東大学について学んだ。山東省の一山、一水、一聖地という意味を知り、黄河と海が混ざる境目はめったに見ることができず、動画で見たが、非常にきれいだった。山東大学のキャンパスは広く、4 万人の学生がいる。学生は寮で生活しているそうで、大学内には病院や銀行などがあり日本の大学との違いがわかった。博物館では古代の遺跡や墓、農業道具などを見ることができた。山東大学中華伝統文化研究体験基地では礼の仕方を教わった。版画の体験もした。私は山東大学の校訓が書かれた版画を体験した。叩くときに紙が破けそうで難しかった。夕食では山東大学で山東大学の学生と交流した。中国の大学受験と日本の大学受験の違いについて話した。日本の大学生と中国の大学生の違いについても話した。とても貴重な経験だった。

【4 日目】
泰山
世界遺産である泰山を登った。高さは 1545 メートルあり、山頂からの眺めは非常に綺麗だった。多くの階段を登らなければならなかったので大変だった。山の上には大きな崖壁があり碑文が記されていた。歴史的な建物もあり自然の風景と歴史文化を体感することができた。

尼山聖鏡、金声玉振演出、花火、ドローンショー

72 メートルの大きな孔子像が立っていた。写真で見るよりも実際に見た方が大きく感じた。建物の中に入ると、木彫りや屏風が展示されており、高い刺繍技術が見られた。縁起が良いものとされている麒麟の模様がたくさんあり、孔子の思想を象徴している。高さ 28 メートル 1500 人を収容できる広い空間では書道を体験した。部屋ごとにそれぞれ違った雰囲気があり、豪華さや雄大さがあった。金声玉振演出では孔子についての劇を鑑賞した。舞台装置や演出に驚いた。また、動きがそろっていて圧巻だった。花火、ドローンショーも規模が大きく綺麗で素晴らしかった。夜は孔子像がライトアップされており綺麗だった。



【5 日目】

曲阜師範大学中外青少年交流基地

文化体験や交流をした。博物館で孔子や教育、教師に関する歴史や有名な先生を知ることができた。孔子から現代の先生まで多くの偉人について学んだ。中国最初の教科書やカンニングのメモ用紙、当時の手書きの卒業証明書など実物が展示されていた。戦時中でも授業を行う様子などを見て国家の指導者がどれだけ教育を大切にしてきたかが分かった。文化体験、交流では中国の茶道について実際に見て学んだ。書道体験をしたり、版画体験をしたりした。矢を壺の中に入れる昔の遊びも体験したが難しかった。

⇐カンニングペーパー

版画体験➡

益海嘉里金龍魚糧油食品株式会社

オイルの会社を見学した。油だけでなく小麦粉なども作られており世界中の市

場に進出している。中国国内でも高いシェアを誇っている。

曲阜中華優秀伝統文化国際研究営地
中国の伝統文化を体験した。弓の体験をした。弓道に少し似ていて、的に矢を当てる。的に当たると金属の音がするが、的は小さめで当てるのが難しかった。姿勢や精神状態を整えてすることが重要だと思った。また、小麦からできた粘土のようなもので孔子を作る体験もした。お手本がすごくきれいにできていて自分が作れるか不安だったが一つひとつ丁寧に教えてくださり、可愛い孔子を作ることができた。

【6 日目】
世界文化遺産孔府・孔子廟
世界文化遺産に登録されている孔府・孔子廟を見学した。孔子廟自体はアジア各地にあるが曲阜の孔子廟は最大で最古。大きな建築物群があり広かった。多くの墓碑を見ることができた。孔子の影響力や名声がわかった。

３．参加した感想、気づき

7 日間で多くの貴重な体験や学びがあった。初めて中国を訪れ、実際に現地で文化や歴史を体感できて非常に充実した訪問だった。中国の大学生、食べ物や町の雰囲気なども日本と似ているところがあったり違いがあったりして興味深く思った。孔子の歴史、山東省の歴史、企業について多くのことを知る機会になった。岐阜県の阜は曲阜が由来になっていたり、孔子廟は日本にもたくさんあり、日本でも孔子祭が行われていたりするなど、日本とのつながりもあるということが分かった。また、中国の魅力や日本との相違点を知り、日本独自の文化や良さ、課題についても再認識できた。この経験を活かして、今後何事にも挑戦する行動

力を高め、より多くの世界を見たいと思った。中国と日本の友好関係を強める、架け橋になれるように日本と中国の文化や魅力をたくさんの人に伝えたいと考える。晩餐会でも現地の方が温かく迎えて下さりとてもうれしかった。私たちをサポートしてくださったすべての方々に感謝の気持ちで一杯である。

帰国後レポート

大学・所属：山口大学国際総合科学部

私は今回、中国・山東省への青少年交流団派遣事業に参加した。中国についての理解を深め、現地の人々とコミュニケーションを図りたいという思いで、本プログラムへの参加を希望した。元々中国語を勉強しており、現在進行形で中国人の留学生とシェアハウスで一緒に暮らしているなど、中国の文化や人々に興味があったことも影響している。

実際にプログラムに参加してみて、中国・山東省の企業や博物館、大学、歴史的な場所などを色々と訪れ、自然や文化に多く触れることができた。個人の旅行ではなかなか入ることができない企業や大学の中を見学し、博物館や歴史的な場所では説明を聞いて深く学んだ。また、現地の人々と同じように泰山を登り、炭や弓を使って文化体験もした。自分で実際に見て、聞いて、登って、体験したことで、経験として深く記憶に残り、今まで想像するしかなかった中国という国の歴史や文化、生活などを、とても身近なリアルなものとして感じることができた。下の写真はそれぞれ、左は山東大学、右は曲阜師範大学での文化体験時の様子である。

プログラム全体を通して感じたことは、山東省と孔子が深く関係していることである。そして、山東省では孔子という人物が、特に深く尊敬されている存在なのだと感じた。様々な場所に孔子の像があり、孔子関連の場所や話が、今も大切に残されている。時を経て、何千年も人々に敬われてきた証拠ではないだろうか。

個人的な経験としては、現地の人々との交流の中で、自分の中国語が伝わらないことが数回あった。ショックを受けながらもよく聞いてみると、自分が知っている中国語と違う発音をしていることがあり、一概に中国語と言っても、方言のように発音が違うのかもしれない。その一方で、お店の方との会話で自分の中国語が通じるととても嬉しく、英語が通じない時に現地の言語でコミュニケーションを取れることは、とても助けになった。

今回、山口県の青少年代表としてプログラムに参加し、中国の文化や習慣について、理解を深めた。日本と中国の政治的関係は、決して良いとは言えず、互い

の国に対して、良くない感情を抱いている人がいるのも事実だろう。インターネットの普及したこの時代に、色んな意見を目にすることは当然で、どの情報を信じれば良いかもわからない。それでも、中国の山東省を実際に訪れ、体験から文化や習慣への理解を深めた身として、周りに左右されず、自分の経験や感じたことをそのまま大切にいきたい。そして、山口県という山東省と縁のある場所について、まずは知ってもらえるよう、多くの人に紹介していきたい。

山東省での交流事業を振り返って

山口大学国際総合科学部 4 年

参加目的

この事業に参加したいと思った一番の理由は、山東省を実際に見て学びたいという思いからです。私の地元の長崎は、江戸時代に日本が鎖国していた時期も中国と交流があったことから、中華街や、唐寺、長崎孔子廟など、中国に関連するものが多く残っています。それらに触れたことから、中国の歴史や文化に興味を持ちました。山口県の姉妹都市である山東省は、孔子や申し、諸葛孔明、王義之など多くの偉人の生まれの地であり、交流事業を通して、実際にその地を訪れて学びたいと思い参加を決めました。

活動内容

今回の派遣事業では、山東省の青島市、済南市、泰安市、済寧市、曲阜市の 5 つの市を訪れました。特に印象的だったものを市ごとに紹介します。

〇青島市

・青島ビール博物館

1903 年にイギリスとドイツの商人が Branch of German Brewery Co., Ltd.として操業開始したビール工場が、現在博物館になっています。青島はドイツ、日本の租借地となった歴史から、青島ビール工場もそれぞれの統治下で変化していった様子が、当時のポスター広告やビールのラベルの展示物とともに説明されていました。

図 1.青島ビール博物館外観

図 2. Dai-Nippon Beer Company Tsingtao Workshop 時代のポスター

〇済南市

済南市は、山東省の省会都市（省都）で、高層ビルが立ち並び、車やバイクやバスが多く通っていました。同じ形をしたビルが複数立ち並んでいる姿や、氷袖といわれる腕から膝まで布で覆ってバイクを運転している姿が日本ではなかなか見たことのない風景だったので新鮮でした。

図 2.高層ビル

図 4. バイクの上に置かれた氷袖

・大明湖

「四面荷花三面柳，一城山色半城湖：四面に蓮の花、三面に柳、都市全体が山景色に、半分が湖に覆われている」と評される済南の特徴が大明湖に凝縮されているように感じました。柳は人を引き留める効果があるようです。李白や杜甫なども大明湖にある湖心亭で詩を読んだ場所もあり、故人に思いをはせることができました。

　また、済南では地下水が溜まっており、300 か所以上の湧き水があることから、人々が空のボトルをもって朝の水くみをしていている人を多く見かけました。

図 5. 大明湖

図 6. ホテル近くの川沿い。水汲みをしていた。

〇泰安市

・泰山（1,545m）

中国の歴代皇帝が天と地を祀る「封禅の儀式」を行ったことで有名な泰山。途中までバスとロープーウェイで登り、最後は歩いて登りました。コースによっては麓から 10 時間ほどかけて登るコースもあるそうです。泰山は、日本でいう富士山のような国の象徴となる存在のようで、多くの中国人観光客で賑わっていました。

山頂の玉皇頂へ行く途中には、唐摩崖と呼ばれる石碑が建っており、玄宗皇帝や乾隆帝が書いたとされる文字が見ることができました。

図 8.山頂までの道のり

図 7. 唐摩崖

1 番右側の金色の文字が玄宗皇帝の字で、左から 2 番目の「峯雲」と書かれた文字が清の乾隆帝の文字。

図 9. 玉皇頂 (泰山の山頂)

〇済寧市

・尼山聖境

孔子の生まれたとされる場所。孔子は尼山の洞窟で生まれたが、顔が醜かったことからその洞窟で捨てられてしまったそうです。しかし、3 日後に母親が洞窟に戻ると、生後間もない孔子を虎が温め、鳥が水を与えて生化されていた姿を見て、将来孔子が立派な人になると悟り家に連れて帰って育てた、というストーリ

ーを初めて知り衝撃的でした。尼山聖境には、世界最大の孔子像（全長 72m：72 名の孔子の弟子から)があり、迫力があります。

「金声玉振」という舞台を見ました。中国語の内容は理解できませんでしたが、舞台の人の伝統的な漢服や、踊り、動作など興味深かったです。また、舞台中の音楽は、磬(けい)と呼ばれる中国古代の楽器を実際に鳴らしていてきれいでした。夜にはドローン、噴水、花火ショーがあり、幻想的でした。

図 10. 孔子像

図 11.　夜のドローンと花火ショー

図 11. 門の敷居

○曲阜市

・孔子廟

孔子廟のメインである大成殿へ進んでいくほど、門の敷居の高さが上がっていきました。これは、位が高いほど敷居が高いというように、近づいていくにつれて神聖になっていく様子を表しているそうです。

大成殿の柱には、5 つの爪を持つ竜が彫られていますが、皇帝が来た時には、竜が逃げてしまうのを防ぐために、布で柱を隠していたそうです。大成殿の中には、孔子の像がありました。

図 12. 大成殿

孔子廟の中には魯壁も置かれていました。孔子廟を訪れる前日に、中國教師博物館で、秦の時代に焚書坑儒が行われた際に、儒学の書物を残すために、魯壁と呼ばれる壁の中に隠したという話を伺っていたので、実物を見ることができて興味深かったです。

山東大学の李月先生のお話の中で、文廟（孔子廟）は中国に 1600、日本に 200、その他の国々にもいくつかあることを知りました。ぜひそれらに足を運んでみたいと思います。また、秦の始皇帝に不死薬を探しに航海した徐福が渡ってきたとされる和歌山県の史跡もいつか訪れてみたいです。

図 13. 魯壁

〇料理

飲茶料理、孔府料理

図 14. 飲茶 (やむちゃ)料理

図 15. 孔府 (こうふ)料理

図 16. ホテルでの料理

料理は、それほど辛い物はありませんでしたが、全体的に油っぽい食べ物が多かったです。肉がメインですが、魚も必ず出されていました。円卓での料理は、最初に載せられていたものだけでなく、後から増えていくスタイルなのに驚きました。どの食事でも必ずと言ってよいほど、デザートにスイカが出されていました。

〇工芸品

図 17. 面塑 (めんそ)

小麦粉の粉で作られた粘土で作成したもの

図 18. 剪紙 (せんし)　切り絵

参加した感想、気づき

　実際に中国に行ってみて、中国は歴史を非常に大切にしているということが印象に残りました。例えば、日本と山東省の往復の山東航空の機内では、一つ一つの窓の上に、論語の言葉が書かれており (図1)、山東省済南市の本屋では、『論語』、『孫子兵法』、『三国志演義』など多くの古書や解釈書が置かれていました。

　また、山東省の略称は、春秋時代の魯国の名残から、「魯」と表記され、車のナンバーにも「魯」と書かれていました。

図 19. 飛行機内の論語

中国の日常生活の端々から、歴史を重んじている国民性や、歴史が根付いている様子を感じ取ることができました。

「有朋自遠方来。不亦楽乎。：朋遠方より来るまた楽しからずや」の論語を象徴とする山東省のスローガンである”Freidnly Shangdon”が、今回訪れた山東省の5つの市の至るところで見られました。

この交流事業の中で、山東省からのおもてなしをたくさん受け心温まりました。1982年から続く姉妹都市として、これからも山口県と山東省の良好な関係を築き続けてほしいです。現在、ビザなしでは中国に入国できないことから、中国観光へのハードルが高い状況ですが、私自身も中国語や、中国の歴史・文化についてもさらに理解を深めていくと共に、この事業で学んだ中国や山東省について周りに発信して、より多くの人に中国へ関心を持ってもらうきっかけを作りたいです。

帰国後レポート

山口大学　国際総合科学部 4 年

私が今回の中国・山東省への青少年交流団派遣事業に参加した理由は中国文化や中国語に興味があったからだ。また、大学二年時に台湾に留学していたことから台湾と中国の違いについても自分の肌で感じたいと思い、参加した。今回の活動では、文化に加えて国際的にも最先端の技術を扱っているハイセンスや食品会社の見学も行うことができ、中国の急速な発展を感じることができた。中でも印象に残っているのがハイセンスが開発している製品だ。メガネなしでも 3D に見えるテレビや女性の化粧品をデザインのコンセプトとしている家電など、初めて見るものが多く感銘を受けた。また、家電だけでなく医療業界やスマートシティ、環境という様々な分野にも進出しておりこれからも力を増していくような勢いのある企業だと感じた。

そして、曲阜師範大学では中国の教育に関する歴史を学ぶことができた。ここで特に印象に残っていることは教師の始まりについてである。教師の始まり

は、体が弱くなった老人が子供たちに生活のノウハウを教え始めたことにあるという。中国語では教師（先生）のことを「老師」と書くが、「老」という漢字が使われているのはこの事柄に由来しているのではないだろうか。また、今私たちは教育を当たり前のように受けているが、教育が当たり前に受けられるようになったのは先人たちの努力のたまものであるということも学ぶことができた。

４日目には尼山聖境を見学した。ここは孔子の生まれた地と言われており、孔子にまつわる話を聞くことができた。年上の人や親を敬う事、自分がされて嫌なことを人にしない、など、当たり前のように感じる概念をゼロから生み出した孔子の偉大さを改めて実感した。

現代社会の秩序の基盤を彼が初めて作ったと言っても過言ではないと言えるのではないだろうか。

今回の派遣事業では中国大陸の学生と交流できる機会もあり、お互いの国の良さについて意見交換をすることができ、中国に対する見方が変わった。交流

相手の学生も日本に行ってみたいと言ってくれてよかった。日本に来た時にはぜひ、山口にも足を運んでほしいと思う。

中国山東省への派遣事業から得たこと

山口県立大学国際文化学部国際文化学科３年

私が今回の派遣事業に応募した理由は複数ありますが、特に大学で出会った中国から来た友人の故郷が山東省にあったということが大きいです。友人の故郷がどんな場所で、どのような環境で育ったのかに興味がありました。実際に友人らの故郷である山東省を訪問し、さまざまな人々と交流できたことは非常に幸運でした。

まず得た知見として、中国は基本的に車両優先であり、歩行者はその次であるということがあります。日本は歩行者優先で、信号がなかったとしても横断歩道で歩行者が止まっていたら車は必ず止まらなければならないため、そこが大きく日本とは異なる点だと思いました。次に知ったことは、済南は地下に水が流れていること、西安は地下に墓が多いことから地下鉄があまり発達していないということです。日本では都市部であれば地下鉄があることが多いため、都市部であっても地下鉄がないという点に、異国であることを感じました。「泰山」が中国人にとって尊い存在であるということも中国に行って初めて学びました。山東省の観光のビデオなどで頻繁にみかけるフレーズとして「一山、一水、一聖人」という言葉があります。その中の一山が泰山を指し、古くから中国人や皇帝たち

に大切にされてきたそうです。また曲阜には孔子廟があり、観光地としても栄えている様子でした。孔子廟内には巨大な木が多数ありますが、そのうちの一つに、孔子本人が植えたとされる木がありました。その木は過去 3 度焼かれ、焼かれるたびに後から生えてきたとされています。そして孔子廟では孔子を祀っていますが、その位置よりも高い建物をつくってはいけないという決まりがあるため、曲阜の旧市街に並ぶ建物は 2 階建てもしくは 3 階建てが多いそうです。一方日本の京都では美しい景観を保つために建造物の高さに制限が設けられています。理由は違いますが、日本でも中国でも建造物の高さに制限があることにより美しい街並みが実現しているという共通点があると思いました。

一週間の訪問の中でも最も印象深かったのは、6 月 26 日に訪問した尼山聖境でのことです。尼山聖境では孔子の巨大な象が建物の奥に立っており、観光客の目を惹いていました。入場した際には、人をあまり見かけなかったため、あまり著名な観光地ではないのかと思ったが、建物の中に入ると多くの人がおり、中には遠足とみられる幼稚園児程の年齢層の子供たちの姿もありました。最も驚いたのは、夜から行われたショーで、孔子の人生がテーマとなっていました。ナレーションは当然中国語でしたが、視覚情報のみでも十分に満足のできるショーでした。日頃、私は日本では舞台など観劇をすることがないため、なおさらに新鮮に感じられました。夜には建物の外でドローンを利用した盛大な花火大会が

行われました。この日が最も鮮明に記憶に残る 1 日でした。また出国前から本場の中華料理に期待していましたが、実際に食べると期待以上の味でした。朝はホテル、昼・夜はレストランやホテルで所謂中華テーブルでご飯を食べましたが、雰囲気も相まって楽しく食事ができました。

　今回の派遣事業で、私は中国について少しは知ることができたと思いますが、まだまだ中国は知らない場所や物事が多いです。日本との相違点、類似点はそれぞれ多くありますが、どれも印象深い思い出の一部となっています。これからは中国からの留学生たちとの会話や、インターネットなどを通して中国に関する知識を得ていきたいです。また、現地で見たり聞いたりした中国語、資料なども活用してこれからの中国語の学習にうまく役立てようと思います。

中国・山東省への青少年交流団派遣事業

山陽小野田市立山口東京理科大学　薬学部薬学科

・参加した目的

中国の文化や歴史に興味を持ち、実際に現地での中国の方との交流や中国の文化に触れ、中国に関する知見を広めたいと考えたため。

・活動内容

海信集団や益海嘉里金龍魚糧油食品株式会社等の企業見学

青島ビール博物館や大明湖、百花洲歴史文化街区、尼山聖境、孔府等の観光

山東大学や曲阜師範大学での文化交流

・参加した感想、気づき

今回の山東省への青少年交流団派遣は非常に興味深く、一生涯記憶に残る旅路になりました。楊様、董様をはじめとした山東省の方々、引率して下さった山

口国際課の方々、さらに free bird 関西支部の皆様方、今回の研修に関わって下さった方々には大変感謝しております。

私は以前よりサークル活動を通してお茶を研究しており、黒豆茶や烏龍茶等の中国茶に非常に興味を持ち、そこからアプリ等で中国の方との交流を通じて中国の歴史や文化、さらに近年での凄まじい発展等へ大変良いイメージを持つようになりました。

その反面、政治問題等日本でのニュースの影響もあり、治安が悪いや衛生環境が良くない等、中国という国に対して少々悪いイメージがあった事も事実でした。しかし実際に現地で中国という国を見て回る中で、元々抱いていたこの 2 つの中国に対するイメージは大きく変化しました。

まず、中国、山東省への治安に対するイメージは青島や済南等大きな街を回っていた影響もあると思いますが、全体的に治安は良いと感じました。具体例として、夜には集団で街を回る事も可能で、男性であり中国に慣れている方なら夜に一人で回っても問題ないのではないかと感じました。中国の方に関しても不慣れな中国語が通じなくても google 翻訳で丁寧に答えてくれる、日本人とわかるとアニメ等の日本文化について話して下さる等非常に気さくで優しい方が多い印象を受けました。また青島や済南では日本のアニメのガチャや東野圭吾

の小説、たこ焼き等の日本食等、日本文化を取り入れてくれており非常に日本に対して寄り添ってくれている印象を受けました。

済南：夜市

中国の衛生環境に関しては元々抱いていたイメージより非常に良い印象を受けました。今回、お世話になったホテルやお店は衛生環境がしっかりしており、料理も大変美味しく、お風呂やトイレに関しても清潔な印象を受けました。しかし、水道が飲み水として使えない事、トイレに紙が流せない事やトイレットペーパーがない可能性がある事に対してカルチャーショックを受けた事も事実です。水道が飲み水として使用できないためコンタクトレンズの洗浄や歯磨き時に水道が使えない事、トイレに行った際はごみ箱に使用済みのちり紙が捨てられているため匂いが気になりました。しかし、今回の旅行では飲み水を毎回ペットボトルで配ってくださり、トイレも清潔なトイレでトイレットペーパーのついた建物を多く選んでくださり不自由する事は少なく大変ありがたかったです。また衛生環境に関して中国では日本に比べて多くのごみ箱が街に設置さ

れており、ごみが街にあまり落ちていない事も衝撃的でした。中国の各場所にごみ箱が設置されている事実は街を清潔に保つ事に加えて、屋台等のお店で買ったごみをすぐ捨てる事も可能なため、観光客は荷物が増えずに様々な物を買って食べる事ができ購買意欲を増やす良いアイデアではないかと感じました。

青島：TOTO のトイレ

済南：ミネラルウォーター

済南：各場所に設置されているゴミ箱

今回の交流ではこのようなマイナスイメージが払拭された事に加え、中国に対するポジティブなイメージも高まりました。具体例として喜茶、霸王茶姫、瑞幸珈琲等、スターバックスのようなカフェも多くあるため若者も楽しめる場所が多くある事、中華料理は量が多い事に加え山東料理は日本人でも食べやすい濃すぎない味である事、臭豆腐やピータン等日本と違った料理も楽しめる事、

夜中はドローンが街中で飛び、VR を置いたゲームセンターが街中にある事に加え、We chat pay 等の電子マネーが発達しており、非常にハイテクである事など中国へポジティブなイメージが高まりました。

済南：中国のカフェ

済南：VR のゲーム　　済南：ドローンの劇

・派遣の成果を今後どのように役立てていくか

私は来年から企業で働くのですが、今回の山東省青少年交流団派遣により社会人になる前に海外へ視野を広げる事ができました。中国のよりハイテクな部分や壮大な文化、歴史から感銘を受けた事、学ぶ事ができた事をより私自身の中で昇華し、日本の周りの方へ伝えていくと共に、海外へ行く事ではじめて見つける事のできた日本の魅力も伝えていきたいと考えています。今後、社会人と

なり企業において中国の方と交流する機会も多くあると伺っていたので、今回通じなかった中国語の発音やリスニングをより鍛えていく事に力を入れていくとともに、今回学ぶ事のできた文化の違いや礼儀作法等を活かしながら相手を尊重した接し方ができるよう努めていきます。

拱手礼（きょうしゅれい）：中国の伝統的な礼儀作法で男性は左手を前に、女性は右手を前にして、手のひらを内側に向け両手を合わせる事で相手に敬意を示し、両腕をまっすぐに前に伸ばしてお辞儀を行います。

令和 6 年度中国・山東省への青少年交流団派遣事業

山陽小野田市立山口東京理科大学

工学研究科工学専攻　1 年

私は 6/24 ~ 6/30 の 6 泊 7 日で中国・山東省を訪問しました。この事業の目的として、中国の文化を知ること、自身の見識を広げること、中国の学生とコミュニティを作ることを掲げていました。

1 日目は青島市を訪れました。青島市は、山東半島の南側の沿岸に位置し、昔ドイツ・日本に支配されていた名残で西洋風の建物が多かったりビールが流行ったりしました。また、Haier や Hisense、青島ビールなど国際的に有名な企業が多くあり、LION や三菱など日本の企業も多く存在しています。今回私たちは、Hisense の見学と青島ビール工場 1)に行きました。Hisense は家電や交通整備システム、医療機器など幅広く、実用性だけでなく若者のニーズにも応えるような製品を多く製造しています。街や生活のスマート化を図るために新たな家電や交通システムを開発するなど技術力の高さを感じました。青島ビール工場では、青島ビールの歴史や製造過程を学び、工場見学も行いました。この工場は 1903 年に設立され、中国で最初のビール工場でしたが、ドイツや日本に買収されたりと多くの歴史があることを学びました。

1) Hisense、青島ビール工場の外観

2 日目は、済南市を訪れました。済南市は山東省の西南部に位置しており、孔子の故郷である曲阜があります。ここではまず大明湖、百花洲歴史文化街区を見学しました。ここはとても自然を感じれるところで、ハスの葉が浮かぶきれいな湖 2)から風情のある景色を味わうことができました。次に

2) 大明湖に浮かぶハスの花

山東手作り展示体験センターに移動し、中国の伝統の工芸品の繊細さにとても驚きました。その後、山東大学で大学や山東省について日本語学科の教授から教えていただきました。大学内の博物館も見学し、矢を壺に入れる当時の娯楽を体験したり鐘[3)]や磬、琴を鳴らして当時の音楽を感じたり、版画を体験したりと様々な文化体験をしました。夜の晩餐会での山東大学の学生さんとの交流では、中国舞踊を披露していただき、私たちはソーラン節を披露しました。山東大学の学生さんと文化交流ができたとともに、会話を通じて言語能力の大切さも改めて感じました。

3) 鐘

3 日目は、泰安市に移動し、世界遺産である泰山[4)]に登りました。中腹までバスとロープウェイで移動し、そこから徒歩 30 分くらいで頂上に到着しました。標高およそ 1500 メートルもある頂上から見える景色は壮大で、泰安市を一望できました。ロープウェイで登るほかに登山コースもあるため、次回泰安市を訪れたときには徒歩で頂上まで登り、日の出を見たいと考えています。下山後、尼山聖境を見学しました。ここには中国最大の孔子像があり、また博物館で中国古来の絵画や像を見学し、歴史を感じることができました。夜は金声玉振を観覧し、孔子の成長過程をダイナミックな劇で表現しており、映像技術や完成度の高さに驚きました。

4) 泰山からの風景

4 日目は、曲阜師範大学にて中国の教育に携わった人々や教育の歴史を大学内の博物館で学びました。その後、益海嘉里金龍魚糧油食品株式会社を見学しました。この会社はグループ会社が非常に多く、油や小麦粉、洗剤など取り扱っている製品も多いことを学びました。また、グリーンファクトリーとして環境にも配慮するための規則を設定し、環境保全にも力を入れていました。

５日目は、孔府・孔廟[5)]を見学しました。孔府は孔子の子孫の私邸兼役所であり、孔廟は孔子が祀られている建物です。孔廟は中国三大宮廷のひとつでもあり世界文化遺産にも登録されています。これらの建物は、柱や壁、天井など細かいところまで精密な絵や彫刻が施されていました。また、日本と中国の龍のイメージ[5)]が違い驚きました。最後の昼食は孔子宴で、曲阜の名物料理や孔子にまつわる料理[6)]を味わうことができました。

5) 孔廟・大成殿、龍のイメージ絵画

6) 曲阜の名物料理

今回の交流事業での様々な文化体験・交流や会社見学を通して、中国に対する関心とグローバルに活躍したいという思いが高まりました。まだ世界には私たちの知らない景色が広がっており、今回中国で学んだことは、まずは身の回りから広めていきたいと思います。また、当初掲げていた３つの目的を達成できたり、参加者から海外経験について良い刺激をもらったりととても有意義な交流事業でした。このような機会を作っていただいた方々に感謝し、今後の人生に生かしていきたいです。

中国山東省への青少年交流団派遣事業　帰国後レポート

下関市立大学　４年

私がこの派遣事業に参加をした目的は主に三つある。一つ目は、密度の濃い国際交流を図りたかったからである。私は以前から様々な国の留学生との交流や海外への旅行などを通し、海外への興味を多く持ち、特に国によっての文化の違いを深く知りたいという思いがあった。中国という国をより知るきっかけとしてこの事業に携わりたいと考え応募を決めた。二つ目は、私の来年の就職先が国際関係の仕事であるため、大きな取引先の国である中国の企業を見学したいと思ったからだ。三つ目は、山口県の PR に携わりたかったからである。私は、山口県下関市の地域活性化を目的とするボランティアサークル所属をし、活動をしていた経験がある。県内外の方への PR 活動はしていたが、海外の方に対してのアプローチはまだしたことがなく、この事業を通して挑戦したいと考えた。

特に印象的だった場所は二日目の海信集団国際センターと五日目の益海嘉里金龍魚食品株式会社への訪問である。海信集団（ハイセンス）は、中国企業の上位１０社の売上高を誇る、大手電機メーカーである。電機メーカーといえばテレビや洗濯機などの身近に使う電化製品を取り扱っていることを思い浮かべがちであるが、海信集団の大きな魅力としては医療分野に強い面であることを学んだ。手術などの際、海信集団の製品により、人間では難しい作業や新たな手術を可能にする将来がそう遠くない世の中になるのだと感じた。益海嘉里金龍魚食品株式会社は、食用油や小麦粉などを扱っている会社である。中国の方なら一度は使ったことのある製品ばかりのようで、日本でもこの会社の製品を様々な人が目にする日もあると感じた工場見学であった。

また最も思い出に残った経験は、山東大学の学生との交流である。まず、互いの伝統的な歌や踊りを披露したときの中国の学生の反応が興味深かった。例えば日本側の大学生はソーラン節を披露して、日本人はソーラン節の振りまでは覚えていなくても、みなが「どっこいしょ」や「ソーランソーラン」などの同じ掛け声をできることに驚いていたのだ。また日本人側も中国の大学生伝統的な踊りに感動している様子も見られた。互いの文化を共有できた時間になったと感じる。またその時私は山口県下関市の景色を見せた。日本の景色は東京や京都などの有名な景色ばかりが思い浮かぶそうであった。山口県の景色を見せると「ぜひ日本に行ったときは山口県にも行ってみたい」とのうれしい声を頂いた。反対に中国の大学生に済南などの山東省の景色をみせてもらい、この派遣事業では行っていない箇所もたくさんあったため、今度は観光でまた山東省に来て、この景色を見たいなと感じた。

私はこの派遣事業で学んだことは、中国の国の勢いと、楽しい空間に国籍の違いなど関係ないと思ったことである。互いの文化の違いをより理解を深めることで、心の距離が一気に縮まった気がする。就職する国際関係の仕事で将来的に海外駐在を目標としているため、この経験したことを活かし、文化理解から歩み寄っていけたらなと感じる。

中国・山東省への青少年交流団派遣事業　レポート

下関市立大学

私が今回の事業に参加した目的は主に二つある。一つ目に山東省で生まれた孔子の歴史をより深く探ることだ。孔子は仁と礼に基づく理想社会の実現を目指し、儒学儒教として東洋の文化圏に大きな影響を与えた。中国文化だけでなく世界的にも大きな影響を与えた理由を知りたいと思った。また、二つ目に中国の文化を直接目で見て感じたいという思いがあった。今まで中国の方と交流する機会がなく、自身の中で中国に対する固定概念があった。中国とは実際にはどんな国なのか興味があり、中国とは、中国人とはどんな人々なのか、理解したいと思い、参加を決意した。

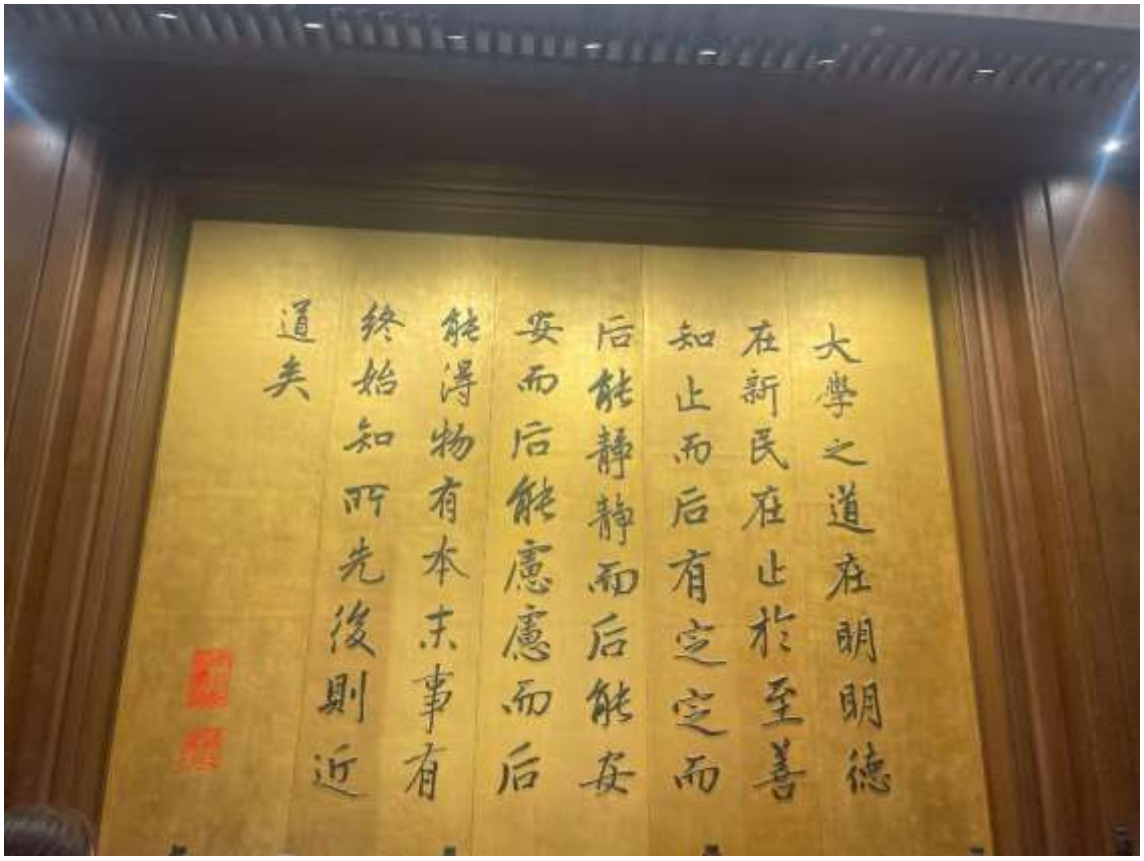
曲阜は儒教の創始者、孔子の故郷である。そこで私たちは世界文化遺産である孔府・孔子廟を見学した。孔子の霊廟、孔子と子孫の墓である孔林、歴代の皇帝により保護された孔子の子孫の住居であった孔府が点在し、合わせて「三孔」という。特に孔廟は中国を代表する建築物である。明・清時代に改築されたものが残っている。魯の哀公が孔子の死を偲び、孔子の住居を改装して築かれた霊廟が起源となる。孔子は仁と礼に基づく理想社会の実現を目指し、儒学儒教として東洋の文化圏に大きな影響を与えた。実際に孔子にまつわる世界文化遺産を見て、現代までこの建造物が維持するためには何度も改築、改修を行っていると考えられ、それほど孔子が中国内で崇められていたことを実感

した。現地では多くの中国人が見られ、現代においても大きな影響をもたらしている。

　また、尼山聖境という孔子をテーマとしたリゾートテーマパークを訪れた。巨大な孔子像があり、金声玉振演出や花火・ドローンショーも開催されている。孔子出生の地とされる夫子洞や中峰の東麗には孔子廟や尼山書院などの建造物がある。特に孔子の「大学」という書物の始まりの文の大きな展示物が印象に残っている。その中の「先後する所を知らば、即ち道に近し。」（物事には根本と末節があり、始めと終わりがある。何が根本で何から始めるべきなのか、よく心得て取り掛かれば、成果も大いに上がるだろう）という文言は、今後の人生の中でもキーフレーズになりうるため、心にとどめておこうと思った。

　今回で孔子の存在が中国内では大きな影響をもたらしており、それは他国にも関することが分かった。儒教が説く倫理観は現代社会にも通ずるものがある。今後も現代・未来の社会にどのような影響を与え、変化させるのか注目していきたい。また、中国人に対するイメージが変化した。以前までは日本に旅行する中国人のマナー違反や反日でもが起きることから、あまり良いイメージではなかった。しかし、今回中国の学生や街中の人々と交流し、日本が好きという人々や、優しく接してくれる方々に会い、良い印象に変化した。中国文化や山口県と交流のある山東省についてもより興味関心が湧いた。そのため、今回の貴重な機会を生かし、今後は積極的に中国の方や文化に触れていき、

相互理解を深めていきたいと考える。



2024 年 7 月

中国・山東省への青少年団派遣事業に参加して

下関市立大学

今回初めて中国を訪れ、1 週間滞在して、今まで授業で習ったり情報を得たりして抱いていた中国へのイメージは実際とは大きく異なり、多くの貴重な経験をすることが出来た。これから、今回の事業に参加した動機や活動内容、また現地で感じたことなどについて順に書いていく。

1. 参加の目的

中国・山東省への青少年団派遣事業を通じてグローバルな視点と多角的な考え方や価値観の解釈を学ぶこと、文化と自然が共存している魅力ある山口県を現地の方にも伝えることが目的で参加を志望した。昨年オーストラリアに留学し、現地で生活し経験することで私自身がもともとオーストラリアに対して抱いていたイメージと大きなギャップがあることに気づきとても驚いた経験から、実際に現地に足を運び自身の目で確かめないことには本当の意味で異文化を理解しているとは言えないことを学んだ。これまで大学での中国語の授業や幼少期からの書道を通じて中国文化に触れてきたが、同じアジアでも自身のもつアジア文化や中国文化のイメージとの違いを体験することで、知らず知らずのうちに抱いていた偏見に気づくことが出来る。そして中国文化の本当の魅力を学び、多様な視点や考え方を身に着けたいと思い参加した。

2. 活動内容

Hisense や青島ビール工場、益海嘉里金龍魚糧油食品株式会社の企業見学、孔府・孔廟や尼山、泰山などの孔子や皇帝にまつわる場所の見学、実際に伝統楽器や拓本、矢を使った遊びなど伝統文化の体験をした。また、現地の学生との晩餐会や各体験を通じて交流を行った。

写真 1.　無形文化遺産面塑体験

3. 現地での学びや感じたこと

実際に自分の目で見た中国は、現代でも古くからの美しい文化と共生しており現地の方のあたたかさも直に感じることが出来た。まず、1週間を中国・山東省で過ごした中でも印象的だったことは3つある。

1つは、中国の食べ物おいしさに感動した。滞在期間中、とても豪華な食事でもてなしてくれ、円卓で次から次へと料理が運ばれてきた。野菜や果物など食材がとてもおいしいうえに山東料理もあまりスパイシーでなく食べやすかった。炒飯にキュウリが入っていたり、トマトがフルーツとして出されたり、初めて見るような食材が使われていたりと、意外性はあるが豊かな味わいで興味深かった。味覚はもちろん見た目も香りも楽しめる食文化を体験できた。

写真 2.　円卓での食事の様子

2つ目は、孔子が今もなお多くの人から愛される存在であるということを実感したことだ。この1週間孔子の教え・考え方に多く触れたと思う。尼山聖境で見た「孔子的世界　世界的孔子」の演目では孔子誕生の生い立ちや一生を表現しているようだった。女性たちのしなやかで美しい舞や男性の力強くアグレッシブな動きに魅了され、とても感動した。また尼山の回廊には 72 名の弟子の像もあり、「一山、一水、一聖人」という言葉が存在するように、孔子の人柄やどれだけ多くの人に慕われていかということを実感し改めて偉大な存在であると再認識した時間であった。

写真 3.　尼山聖境の中の様子

写真 4.　尼山の孔子像

3つ目は、現地の方のあたたかさである。私自身、大学の第二外国語で中国語を選択していたもののほとんど現地の方と意思疎通ができない語学力での参加だった。まず特に驚き感動したことは、場所を教えてもらった

り買い物をしたりしたときなど私たちが「謝謝」とお礼を伝えると必ず笑顔で「不客气(どういたしまして)」と返してくれることだ。日本では最近ではありがとうと感謝を伝えても何も返ってこないことも度々あるが、中国では当然のように返してくれ、中国語がほとんど分からないながらも現地の方と繋がれたようなあたたかい経験が出来た。また、毎日１～２時間程度自由時間があり仲間といろいろなカフェや夜市に行った。中国ではキャッシュレス決済がかなり進んでおり、オーダーもWeChat Pay からしかできないカフェもあった。うまく注文できなかったときや何がいいか悩んでいるときも店員の方が一生懸命通訳アプリを使って話しかけてくれた。時には店員の方が自分のアプリで注文してくれたこともあり、現地の方々のやさしさに救われて中国の滞在期間を楽しむことが出来た。現地の大学生との交流会でも身振り手振りで伝えてくれたり、晩餐会でも素敵な歌や舞などで歓迎してくれたりとても濃密で有意義な時間だった。

写真 5.　夜市の様子

4. まとめ

よく日本の文化と海外の文化を比較し、知らず知らずのうちにどちらが優れているか優劣をつけがちだが、今回自らの足を運んで初めて体験した中国文化は優劣をつけるものではなく、とても美しく感動することばかりだった。これまでの教育や情報から築かれてきた偏見は現実とは大きく異なり、現地でしか理解しえないものも多いと感じた。帰国して周りの友達や知り合いから、「食べ物がすごく辛いし口に合わない」「まちが汚い・うるさい」「治安が悪い」などネガティブなイメージでどうだったか聞かれることが多かったが私も今回の事業に参加していなかったらいまだに実情を知らないまま情報などから築かれた偏見を持ったまま過ごしていたかもしれない。同じアジア文化でもまちのにおいも雰囲気も違い、中国のまちのにぎやかさと親しみやすさに魅了された１週間だった。孔子の教えは現代の人たちにも根付いているからこそ過去と現代の文化がうまく融合して成り立っているのではないかと考えた。今回通訳の方や中国語が話せる仲間

に頼りきりだったが、やはり自分の言葉で現地の方とお話してみたい気持ちが強まった。今回のこの貴重な学びをもとに今後も中国に限らず知らない世界を自分の目で見て体験して知っていきたい。それと同時にいつかまた現地の方と話す機会があったら今度は自分の言葉で会話ができるように中国語も引き続き学んでいきたい。

山東省派遣事業を通して

山口県立大学　国際文化学部３年

私がこの派遣事業に参加した目的は、中国の食文化についてより詳しく知ることでした。実際に飲茶やその他の中国料理を体験し、食文化に触れる機会が多くありました。今回の派遣事業として山東省を訪れた１週間は、私にとって忘れられない貴重な体験となりました。私は海外に行くこと自体が初めてであり、言葉や文化の違いなど様々な不安を抱えていました。しかし、山東省では多くの文化的な発見と交流があり、この事業を通じて得た知識と学びは、私の視野を広げ、異文化理解を深めるきっかけとなりました。

ハイセンスという会社の見学では、ハイセンスの技術を実際に目で見て理解することができました。ハイセンスは最新の技術と高い品質で知られる中国の大手企業です。そこで見た先進的な製品や技術は非常に印象的で、中国の技術革新の速さと企業の努力を実感しました。また、青島ビール博物館の見学も行い、ビールの製造過程や歴史について学びました。青島ビールの試飲も体験し、日本のビールと比較することで、新たな味覚の発見がありました。

大明湖と百花洲歴史文化街区の見学では、美しい景観と豊かな歴史に触れました。その後、山東大学での中国古来の楽器の演奏を通して、大学生たちと交流しました。想像よりも難しく、演奏することに苦戦しましたが、貴重な体験となりました。

泰山と尼山聖境の見学では、多くの観光客が訪れており、中国の人にとっても歴史的な遺産であり、趣のあるものであるということが分かりました。泰山は中国五岳の一つであり、古くから多くの皇帝や詩人が訪れた場所です。その壮大な自然と歴史的な背景に圧倒されました。尼山聖境では金声玉振演出を観賞し、中国の伝統芸能に触れることができました。

曲阜師範大学では書道や剪紙の文化体験を行いました。これらの伝統的な芸術活動を通じて、日本と似ている部分があると感じました。さらに、益海嘉里金龍魚食品株式会社の見学では、中国の食品産業の発展とその裏にある技術革新を学ぶことができました。

孔府と孔子廟では、孔子の教えが中国の方々にどのような影響を与えているかを理解しました。孔子の教えがどのように受け継がれ、実践されているかを学ぶことで、孔子の思想の偉大さとその持続的な影響力を実感しました。これらの歴史的な場所を訪れることで、中国文化の根底にある哲学や価値観を深く理解することができました。

自由時間には山東省の夜市や商店街を訪れ、様々な食べ物や店を見ました。地元の人々との交流や、異なる食文化を体験することで、日常生活の中にある文化の多様性とその魅力を感じました。商店街では通訳なしで中国の人と話す機会があり、自分が学んできた中国語を活かすことができました。この経験を通じて、より中国語を学ぼうと思う機会となりました。

この１週間の旅を通じて、私は中国の多様で豊かな文化、歴史、そして現代の発展を深く理解することができました。異文化交流の重要性を再認識し、言葉や国境を超えた人々とのつながりの大切さを学びました。山東省での体験を活かし、今後もさらに多くの文化を学び、理解を深めていきたいと思います。

～プログラム参加における目的～

　日本の魅力を伝えるとともに、著しい発展を遂げている中国の技術や文化を実際に現地で体験したいと考えたからである。

　実際のところ、山口大学に入学する以前は中国という国に対して負の感情を持っていた。中国に関する情報をテレビの報道やネット記事から入手し、ただそれだけを信じ込んでいたからである。しかし大学入学後、中国人留学生と実際に同じ時間を共有することで、中国人や中国に対する消極的な考え方がなくなった。実際にかかわったこともない相手に対して勝手なイメージを作っていた自分を恥じた。彼らは、かけがえのない存在となり、国籍や文化を超えてそのような関係になれたことに心から感謝している。彼らのおかげで中国が素敵な文化と国民を有していることを知ることができ、中国に興味を持った。

～活動内容～

　山東省現地の活動内容として世界にも誇る技術を持つ企業や日本の思想にも大きな影響を与えた孔子にまつわる史跡への訪問をした。また伝統文化の体験や雄大な自然に触れた。

～気づきや感想～

　本社が山東省にあり、世界でも影響力のある家電メーカー、ハイセンスを見学した。創業当時はラジオを製造していたが、現在では、テレビをはじめとし、冷

蔵庫や洗濯機などを生産している。特にテレビにおいて、映像の鮮やかさは大前提とし、目への優しさをコンセプトとしているレーザーテレビの技術が印象に残った。またレーザーを使用することで従来のランプよりも消費電力が低減されている。テレビとしての機能だけではなく、二次作用的な部分が考えられているというところが世界で求められる会社の視点だろうと感じた。また、ほかの家電製品の実物を見たが、映画からデザインの発想が得られているものもあり、自由で洗練されていると感じた。

　金声玉振演出という舞台を観賞したが、それはまさに技術と文化の融合を垣間見たような体験であり非常に感動した。迫力のある映像と音、自由自在な舞台、多くの演者によって左右上下どの方面からもパフォーマンスが繰り広げられ、演出の初めから終わりまですべてを楽しんだ。この舞台をこれから山東省に訪れる人に非常におすすめしたい。自分で手や体を動かして行う文化体験では、拓本や投壺、面塑づくりを体験した。拓本は文字や絵が描かれた石に墨を塗り、紙に写し取ることである。地道な作業を重ね、成功するときれいに写し取ることができる。何枚も拓本をとっていた時代の苦労を感じた。投壺とは、箱を置いたところからある程度離れ、箱を狙って矢を投げ入れる遊びである。非常に難しく、なかなか入らなかったが、夢中になって遊ぶことができると感じた。面塑とは、小麦粉を主材料とし、粘土状態に練り上げた生地で人形や置物を作る伝統的な

民間工芸である。この体験では孔子作りに挑戦し、かわいい孔子の置物が完成した。このような工芸品はあまり日本になく、新鮮な気分だった。

自然に触れた大明湖での散策で、複数の泉が合流してできた天然の大明湖に浮かぶ蓮の花を眺めた時間は古代の詩人が大明湖を題材に詩を読んだ時の気持ちに共感することができただろう。昼は蓮の花、ライトアップとの一体化が美しかった。泰山見学では、標高 1645 メートルある頂上まで登り、崇高な景色を目にした。天気が良く、景色が鮮明にみえ、心も澄み渡るようだった。泰山の上の方は、地上近くよりも気温が低く、日光が当たっているのに涼しいという初めての感覚を味わった。

～人や街並み食事～

中国の街並みを見ていて印象に残ったのは、木が多かったことである。交通量が多い道路でも必ず木が植えられており、山口市にいるときよりも緑が多いと感じた。これらの木は持続可能な社会を目指すために植樹したものであるということを聞いた。都市と緑の共存ができている点が日本には少ない新しい都市の印象だと感じた。持続可能性高める対処がおくれているというイメージがあったが、実際は非常に進んだ取り組みが行われていると感じ、日本も見習う必要があると感じる。また、居住している建物の風景が特に印象に残った。同じような建物がずらりと並んでいた。日本の面積の約 4 割に 1 億人越えの人口がいる

そうだ。日本の都市の住宅風景と比べると異様に感じた。

　今回実際交流できたのは大学生と街中の人であった。街中で、日本のアニメキャラクターのコスプレをした何人かに声をかけると快く話してくれ仲良くなれた。共通のキャラクターが好きだとわかったとき、相手の方が持っていたキャラクターのカードをくれたことから、中国の方のフレンドリーさと優しさを感じた。

　食事は円卓で食べることが多かった。中国では、客人をもてなすときにその人の食べることができる量よりも少ない、もしくはちょうどいい程度に用意しておくことは失礼で家にあるものすべてを出す程度が最大のもてなしであるということを学んだ。そのため常に、円卓の上にはたくさんの食べ物を並べてくれ、様々な料理を楽しむことができた。円卓を囲んで同じ皿から少しずつとるという日本とは違う食事の文化を体験することができた。しかし、量が多く毎回残っていたので「もったいない文化」がある日本の食事の仕方の方が食品ロス削減においては最適な方法だと感じた。

～今後の展望～

　本プログラムに参加し、現地では量や規模に圧倒されることが多いように感じた。どれも非日常的で素晴らしいものに感じた。しかし、山東省に魅力を感じたのは、普段の日本での生活と違いがあるからだろうと考える。そのため、山口

県は量や規模というよりもコンパクトでぎゅっと詰め込まれた体験、経験ができるところを目指し、差異を効果的に活用するかであると考える。今ある観光資源を基本に、山口は山口らしく住民が誇れる部分を主張していくことで海外からの観光客が山口に興味を抱くようになると考える。

　自分自身の歩みとして、本プログラムでの出会いに感謝し、これからも自分の立場でできる山東省や中国との交流、理解に努めていきたい。

～中国・山東省への青少年交流団派遣事業を経て～

山口大学・国際総合科学部４年

私が今回このプログラムに参加した理由は、実際に中国に赴き、中国のあらゆるものを生で体験することで、将来的に中国文化の発信に貢献したいと感じたからである。私は来年度から、「アジアの玄関口」と呼ばれ、アジアのリーダー都市となることを目指す福岡の街づくりに携わる会社に入社する予定である。そこで私は、福岡を「老若男女、国境に関係なく共存できる街」にしたいと考えている。この目標達成のために、日本と地理的に近しく、政治・経済・文化面で強固な結びつきがある中国のことについて、まずは自らの五感で触れたいという想いがあった。

６日間のプログラムでは、中国山東省の中での青島市、済南市、泰安市、済寧市、曲阜市の５つの都市に訪れた。山東省は中華文明を発達させた重要な発祥地であり、かつ中国において最も経済が発展している省の一つでもある。そのため、世界遺産に登録された中国五大名山の一つである泰山に登り、秦の始皇帝時代から明清時代までの間、歴代皇帝が崇めてきた神聖な雰囲気を肌で感じたり、革新的なテクノロジーで世界に名を馳せている海信集団（ハイセンス）国際センターや青島ビール博物館を見学し、巨大国家と言われる中国の勢

いを目の当たりにしたりすることが出来た。

　そんな中、最も印象深かった体験は、儒学を説いた孔子が生まれた場所、曲阜市にある尼山聖境で観た「金声玉振」というショーである。これは、礼儀・音楽文化をテーマに、一般の人が儒家文化の影響のもとでどのように聖人になっていくかの生涯を描いた中国の伝統文化ショーである。このショーに感銘を受けた最大の理由は、その壮大さと、それゆえに観客に与えることの出来る感動の大きさからである。ショーでは、一人の青年が人生の９つの段階と季節の変わり目を経て、聖人へと成長する様子がエンターテイメント風に理解できる。中国の伝統的な楽器を用いた生演奏や、華美な衣装を纏った圧倒的なキャスト数と、彼らのパフォーマンスの高さ、大胆に動くセットの迫力と、ナレーションと共に浮かび上がる説明文、それら全てが相まって一時間に及ぶショーは本当に素晴らしいものであった。

　このショーで私が注目した点は２点ある。１点目は、ショーの公演場所である。孔子が生まれた曲阜市に作られた、孔子の生き方や考え方を表した尼山聖境という公園の中にあるミュージアムにてショーを観ることが出来る。ショーの公演時間は夕方１８時からであるので、その時間までに観光客は尼山聖境を歩いて孔子の生き方に触れたり、孔子にまつわるあらゆることが展示されたミュージアムにて儒学たるものを楽しみながら学んだりでき、概要

をつかんだ上で、ショーを観ることが出来るのだ。一つの場所で半日は十分に楽しめるために、国内外から毎日多くの観光客を呼び込むことに成功し、かつ、訪れた観光客にしっかりと中国文化を体験させることが出来ている点が非常に素晴らしいと感じた。２点目が、ショーの全ての音声と字幕が中国語であったという点だ。俳優はもちろん、ナレーションや、スクリーン画面に映し出されるものすべてが中国語であり、それ故にショー全体を通じて自分が中国文化に心から没入している感覚になれた。私自身は中国語を話すことも聞くことも出来ないため、ショー全体を通してどのようなストーリーであったのかは深い部分まで理解することは出来ていない。他の友人や、別の海外からの観光客も恐らく中国語を理解出来ていた人は少ないと思われたが、それでも最後には皆口々に感動したと述べたのは、ショーのクオリティの高さはもちろんであるが、ショーが全て中国語で行われたということに意義を私は感じる。先日フランスで公演された舞台「千と千尋の神隠し」でも、全てが日本語で行われ、観客から盛大な賞賛を受けた。同様に、金声玉振のショーも、中国の言語を使ってショーを披露することで、ショー自体の魅力を越えて、中国の文化を広めることに貢献していると感じた。

私は、将来日本の福岡を「老若男女、国境に関係なく共存できる街」にするという目標達成のために、まずは自らの五感で中国に触れるという意思のも

と、今回のプログラムに参加した。実際に訪れた中国・山東省は、街と経済は活気に溢れ、人々の生き方は自由に、しかし力強く、想像よりも情熱に満ちた地域であった。日本との違いを所々で感じつつも、ベースとして大差はない、というのが私の率直な感想で、古くからの非常に美しい文化を有する元気な国だと思う。私が今回の派遣で感じた中国文化に対する大きな感動体験を、将来、同じように福岡に住む人、訪れる人にも与えたい、そして、福岡からアジアの魅力を発信し続けることで、最終的に「老若男女、国境に関係なく共存できる街」を創造していきたいと思う。

日中の友好を繋ぐ架け橋に

1. はじめに

中国と日本は古くから文化交流が盛んであり、日本には漢字や仏教、工芸品など多くのものが今もなお残り、使われ続けています。私が中国に興味を持ったのは、小学・中学の歴史の教科書で中国史が取り上げられていたことがきっかけでした。特に、儒学を伝えた孔子や孟子には強い関心があり、彼らの教えを暗記したこともあります。

今回私が「中国・山東省への青少年交流団派遣事業」に参加した最大の目的は、孔子の故郷である山東省を訪れ、さらに儒学について深く学びたいと思ったからです。同時に、近隣の国でありながら自分自身が中国についてほとんど理解していないことにも気づきました。中国と日本の関係についての報道を目にするたびに、私は両国の関係が良好になるよう貢献したいと感じていました。しかし、相手国に対する知識が不足していることを痛感していました。儒学をきっかけに中国への興味が高まり、この度の山東省での研修に参加しました。

2. 孔子の故郷と儒学の精神

孔子は紀元前 551 年に山東省曲阜市で生まれました。幼少期に父を亡くし、貧困の中で育ちましたが、勉学に励み、後に儒学の思想家として活躍しました。彼の教えは後世に渡り多くの人々に影響を与え、東アジア文化の基盤を築きました。現在、孔子の故郷である「尼山聖境」には高さ 72m の孔子像が設置されています。これは黄金のブロンズ像で、世界で最も高い孔子像となっています。孔子のとっているポーズは「拱手」と呼ばれ、挨拶や感謝の念を示す際に用いられます。この姿勢は相手に対する誠実さや尊敬の念を示す儀礼です。前日に山東大学を訪問した時、私たちは拱手の方法を教えてもらいました。その知識を活かし、孔子像の前で拱手をしました。この体験を通じて、孔子の精神に対す

る敬意と感謝の気持ちを改めて実感することができました。

尼山聖境の周辺は森林や泉が広がり、とても自然豊かです。その風景は美しく、心が癒される場所でした。このような豊かな自然環境の中で、孔子の思考が発達し、儒学の精神が培われたということに感心しました。孔子の故郷を訪れることで、彼の教えがどのように実践され、現在に受け継がれているかを学びました。また、尼山聖境内での食事中、中国の小学生たちが孔子の論語を暗唱しているのを聞き、孔子の教えが現地の方々の日常生活にどのように根付いているかを感じることができました。

3. 文化体験と学び

今回の研修では、大学や博物館、文化体験センターなどの訪問もあり、中国の歴史や文化、特に儒学の精神に触れる機会が多くありました。印刷技術が発達する以前に使われていたコピー方法である版画や、日本の弓道に類似する中国弓術を体験しました。中国弓術は弓道のように弓矢ではありませんが、円盤の中心に放つ遊びであるところは同じでした。弓道は日本特有の文化と考えていたので、中国にも似ている遊びがあることに驚きました。このような文化体験を通して、日本と中国の文化の違いを知ることができました。また、これらの体験を通じて、両国の文化における共通点や相違点を理解し、異文化理解の重要性を再認識しました。

4. 済南市の本屋にて

私は各国の本を集めるのが好きで、今回の研修中に滞在していた済南市で本屋に立ち寄りました。市街地に位置するその本屋は、5 階建ての大きな書店でした。ここで私が驚いたのは、大人も子供も関係なく、本を座り込んで読んでいる光景でした。どこで読もうがお構いなしという感じで、特に子ども向けの本のエリアは子供たちが地べたに座って読んでいるため、棚の近くに近づくことが難しい状況でした。ビニール袋に入れられていた本もありましたが、そのビニールが破られているものも見受けられました。

この光景を見て私の頭に浮かんだのは、中国に図書館はあるのかという疑問です。調べてみると、済南市にも図書館は存在し、さらに 24 時間営業の無人図書館もあることが分かりました。また、中国全体には 3,196 か所の公共図書館があるそうです。対して、日本の公共図書館数は 3,303 か所なので、中国の広大な面積や人口を考えると、少ないかもしれません。

しかしながら、なぜ人々は机が用意されている図書館ではなく、本屋で座り込んで本を読んでいるのでしょうか。この疑問を抱きつつ、本屋での観察を続けました。地元の人々にとって、本屋は気軽に立ち寄りやすい場所であり、図書館よりもアクセスしやすいのかもしれません。加えて、本屋は新刊や多様なジャンルの本が揃っているため、興味のある本をすぐに手に取って読むことができるという利便性もあるのでしょう。

5. 中国の郷土料理と多様性

中華料理と聞くと、濃い味付けや油をふんだんに使用した料理を思い浮かべるかもしれません。確かに、基本的に濃い目に味付けされているものが多い印象を受けました。私が特に興味があったのは杏仁豆腐です。中国本場の杏仁豆腐を食べてみたいと思っていましたが、滞在中の食事では杏仁豆腐が提供されることはありませんでした。そこで、中国に詳しい方に尋ねてみると、杏仁豆腐は南部の郷土料理であり、北部とは料理が異なることを知りました。

広大な土地を有する中国では、多様な郷土料理が存在します。そのため、一概に「中華料理」とまとめることはできないのです。地域ごとに気候や食材、歴史的背景が異なるため、料理のスタイルや味付けも多岐にわたります。例えば、四川料理は辛味、広東料理は新鮮な食材を活かした薄味が特徴です。一方、北京料理は濃厚な味付けが多く見られます。このように、中国の料理文化は非常に豊かで多様です。

よく考えてみると、日本にも郷土料理が存在し、地域によって食べ物が異なります。例えば、ラーメンの味付けは地域によって異なり、味噌ラーメン、醤油ラーメン、豚骨ラーメンなどが存在します。このことから、日本と同様に中国も地域ごとに独自の料理文化を持っていることを実感しました。

6. まとめ

今回の山東省での研修は、中国の文化と歴史、そして地域ごとの独自性について深く学ぶ貴重な機会となりました。孔子の故郷を訪れたことで、儒学の精神がどのように実践され、現代に受け継がれているのかを理解することが出来ました。また、中国の文化や人々に触れることにより、日本文化との相違点をより深く知ることができました。

特に、本屋での出来事や中国の郷土料理についての学びは、異文化に対する理解を深める上でとても有意義でした。済南市の本屋での体験からは、図書館

における国ごとの利用スタイルの多様性を理解することができました。また、広大な中国の郷土料理の違いを通じて、日本料理にまで思考を凝らし、地域によって異なる料理文化について考えさせられました。

　これらの経験を通じて得た知識や気づきは、今後の学びや異文化交流に大いに役立てていきたいと考えています。異文化に対する理解を深めることは、国際的な視野を広げ、他文化の方とより良い関係を築くための基盤となります。この貴重な経験を基に、これからの活動や研究に活かしていくつもりです。日本と中国、世界の関係がさらに友好的になりますよう、今回得た知識を大切にしていきます。

中国・山東省への派遣事業報告書

私は今回の中国・山東省への派遣事業を通して、多くの発見と学びを得ることができました。中でも特に印象に残ったことは次の３点です。

まず驚いたのは、山東省の発展です。事前に調べたところ山東省は中国国内でも有数の経済規模と人口を持つ省だと分かりました。その一方で、ネット規制により情報収集は難しく、事前のリサーチは限られたものでした。想像でしか思い描けなかった山東省に実際に行ってみると、街中ではみんなが電子決済で支払いをおこない、商業都市である青島にはデザイン性に優れた素敵な建物や数え切れないほどの高層ビルが立ち並び、今日の中国の経済発展を肌で感じる事ができました。

２つ目は、山東省の長い歴史です。山東省には儒学の始祖である孔子が誕生したことで有名な曲阜があります。曲阜では、世界遺産の孔廟・孔林・孔廟や７２ｍの巨大孔子像がある尼山聖境で、孔子が説いた「礼」を学ぶことができました。現代でも受け継がれる教えと、中国人にとって欠かせない偉人を感じることのできる場所でした。また、泰山市にある世界遺産の泰山から見る景色は絶景でした。中国国内から多くの観光客が来る場所に実際に足を踏み入れることができ光栄でした。

３つ目は、温かいおもてなしです。歓迎晩餐会で出会った中国の大学生、各地で会った通訳の方やホテルの方々、そして今回の派遣に帯同してくださった山東省の職員の方々など、出会ったすべての方が私たちを歓迎してくださいました。特に山東大学を訪問した際には、歌や踊りなどのパフォーマンスでおもてなしをしていただきました。また、ホテルスタッフの方は言語が伝わらない中でも思いやりのある対応をしてくださり、これまで持っていた偏見が一部の断片的な情報によるものだったという事に気づきました。多くの方が温かく出迎えてくださったことを大変感謝しています。

山東省で過ごした１週間で１番感じた事は、「山口県も山東省も歴史・文化・自然に恵まれた素敵な場所」であるということです。どちらも長い歴史と伝統ある文化を感じることができ、加えて多くの観光客を魅了する雄大な自然が魅力の場所です。他にも、山口は獺祭や東洋美人という日本酒があるのに対し、山東省は青島ビールがあるなど共通点が多くありました。今回の滞在を通して、山東省が長い歴史・文化・自然を持つ地域であることに感嘆すると共に、山口県にある歴史・文化・自然も他にはない情趣あふれた素晴らしい場所であることを再確認しました。

長いようで短いあっという間の７日間でしたが、この交流を通して今後やりたい目標ができました。１つは、山口県の魅力をもっと多くの外国人に広めることです。私は現在、卒業研究として美祢市に外国人観光客を誘致するためのプロジェクトを行っています。日本が好きで来日している外国人観光客の多くが山口県について知らない現状に加え、中国で交流した大学生も山口県を知らない状況がありました。NY タイムズにも選出された山口市をはじめとする山口県は、錦帯橋や元乃隅神社といった日本らしい景観、秋芳洞や青海島など雄大な自然、またふくをはじめとした豊かな食材にあふれています。卒業研究を行う中で、中国の方にはもちろんのこと、世界中の人に歴史・文化・自然あふれる山口県を発信していきたいと思います。

２つめは、中国語の上達です。今回の旅を通じて、言語の壁によるもどかしさを感じる場面が多くありました。日本語はもちろんのこと、英語さえ伝わらないことも多くあり、中国語で少しでも会話ができたらと言語の大切さも痛感しました。現在少しずつ勉強している中国語を、これを機に自分自身の想いを伝えられる日常会話レベルまで上達させていきたいと思います。

最後になりましたが、私はこの中国・山東省への派遣事業に参加できたことをとても幸運に思います。大変楽しい思い出がたくさんできた山東省を、近い将来また訪問したいと思います。山東省職員の方々、山東省人民対外交友協会の方々、山口県職員の方々をはじめとするこの事業に携わってくださった皆様、この度はこのような機会を設けて下さり本当にありがとうございました。

山東省への派遣を通して学んだこと

山口県立大学　国際文化学部国際文化学科

　私はこれまでオーストラリアや韓国、ハワイなどを訪れる多くの方々と交流してきました。その中で最も印象深いのが中国の山東省を訪れたことでした。大学入学後から中国語を学ぶことで中国という国に興味を持ちつつも、日々ニュースで報道されていることだけを鵜呑みにして中国は怖いという印象を無意識に持ってしまっていました。国際文化学部に所属し世界各国の現状や異文化理解を深めている私ですらこのように感じていたということに衝撃を受けると共に、中国の方々と現地で交流しその人柄や暖かさに感動し必ずまた来ると決意しました。今回このようなプログラムに参加することができ、また山東省を訪れたことで新たな発見や学びがたくさんありました。

まずは 2 日目に訪れた Hisense 本社と青島ビール博物館です。Hisense 本社では様々なハイテクノロジーな家電や技術を目で見て体験しました。私が圧倒されたのは、最初の会社説明から最後のエレベーターのドアが閉まるまでのすべてが演出のようで学んでいるというよりも体験しているという方がふさわしいくらい手の込んだ会社の紹介でした。少ない時間でしたが Hisense というブランド自体のデザイン性やブランド力を存分に感じることができました。また青島ビール博物館では、世界で唯一無二の味と香りの秘訣などを歴史と共に学びました。工場内の見学やビールの試飲などを通して、青島ビール人気の理由を知ることが出来ました。

次は私がいちばん楽しみにしていた泰山です。バスとロープウェイを使って山頂付近へいき、30 分ほど登って山頂へ行きました。その間もガイドさんから泰

山の伝説や泰山が中国の方々にとってどんな存在なのかを学び、山頂についたときには表現しがたいような清々しい気持ちになりました。道中にはお祈りをしている方や座禅をしている方がいらっしゃって、泰山が人々の心のよりどころになっていることを実感しました。

最後は孔子についてです。山東省は孔子の故郷がある地域であることから、今回の旅ではあらゆる場面で孔子について学ぶ機会がありました。なかでも尼山聖境では世界最大の孔子像や孔子の生涯を表現した演劇を鑑賞し、孔子の偉大さや知名度の高さを実感しました。さらに儒教について学んでいく中で、自分のなかに無意識のうちに儒教の考え方が根付いていることを強く感じました。

今回のプロジェクトに参加させていただいたことを通して、今まで以上に中国語に対するモチベーションや中国に対する関心が深まりました。現地の学生やガイドさん、山東省の方々は私たちにとても親切にしてくださり、山東省のす

ばらしさと温かさを心から実感した１週間でした。これらの経験をもとに大学内外で山東省の良さを多くの人に伝えていき、これまで以上に広い視野を持って世界を捉えられる人間になりたいと思います。

中国山東省への青少年交流団派遣事業

周南公立大学２年経済学部ビジネス戦略学部

青島ビール博物館

今回の派遣事業は、大学の講義で中国語を選択しているため、自分の語学力を試してみたいと思い、応募しました。山東省では、青島ビールの工場を見学し、ビールの製造過程や歴史販売過程など様々な側面を知ることができました。小麦粉工場では企業の宣伝映像を見学したほか、儒学の祖である孔子の地元である尼山聖境で孔子の弟子や開かれた図書館、孔子の一生が見れるショーなどを見学しました。また孔子を祀っている孔子廟なども見学し、礼や仁の心など中国の思想の根幹について学ぶことができました。

私が一番記憶に残っている場所は、泰山です。山の中腹までバスとロープウェイを使って登りました。頂上から見える景色で日本では見ることのない地平線が見え自分が今中国にいることが実感できた瞬間でもありました。下から登山

している人たちもいた為登る階段で寝ている人や担架で運ばれている人など中々に大変なことがわかりました。ただ泰山には人を惹きつけるパワーがあるなと感じました。

中国の文化に直接触れることで、日本の様に周りに合わせて行動するのではなく自分を主張することの大事さを中国の国民性から感じました。そこから自分を主張させることの大切さを学びました。また、中国の方と更に的確なコミュニケーションを取るために語学力を上げようと思いました。食文化に関しては日本とは全く違い味付けがかなり濃いめで自分にはとてもよくあいましたが白米が欲しくなるおかずばかりでした。飾り付けが豪華な食事も多く、食べられるものと飾り付け用のものが見分けるのが大変な料理もありました。食事マナーも完食はすることなく少し残して食べ終わるなど日本との違いを感じました。私は、海外に興味があるため、将来は色々な国の方々と関わる仕事に就きたいと考えています。将来の夢に近づくために、沢山の人たちと交流して、自分の知見を広めていきたいです。

中国・山東省への派遣での学び

大学の海外研修プログラムでフィリピンへ１ヶ月留学を行った際に、現地のスラム街の子供たちに日本語を教えるボランティアに参加しました。交流を通じて、環境問題や貧困の現状に直面し、その現実を目の当たりにしました。この経験から、「自分の目で見て体験することが大切だ」という気づきを得ることができ、異文化理解や国際協力の重要性を改めて理解する機会になりました。中国語の授業やフィリピンでの経験で身につけた知識や視点を活かし、山口県の青少年代表として、中国・山東省への交流団派遣事業に参加し、異文化理解や国際交流の推進に積極的に貢献したいと思い応募をしました。

中国・山東省では、大手企業や中国伝統文化センターでの見学、山東大学の学生と英語や中国語を使って国際交流をしました。山東大学では、現地学生の伝統的なダンスを鑑賞し、山口県学生代表の１人として日本の伝統的なダンスである「よさこい」を踊りました。両国の文化を共有することで、お互いの異文化理解を深め、親密度も高まりました。中国大手電機メーカーであるハイセンス[1]では、企業の規

参考資料 1

模や業務内容、経営戦略などについて学ぶことができました。現在、ハイセンスでは中国だけではなく、多くの国々でシェアを獲得しており、中国、アメリカ、欧州など 25 ヶ所に研究開発センター(R&D)を建設してグローバル研究開発体制を確立し、世界 160 以上の国と地域の人々に製品を提供しています。ハイセンスは 1979 年にテレビ工場を設立し、1984 年松下電器産業（現パナソニック）からテレビ生産設備を導入して中国市場トップクラスのテレビメーカーとなりました。また、ハイセンスは傘下に東芝や日立などの日本企業を収めており、日本との歴史や深い関わりに驚きました。実際に現地の企業に行き、お話を聞いて自分の目で学ぶことで、普段大学で学んでいる経済・経営の知識が深まり、理論だけでは得られない実践的な洞察を得ることができました。中国の企業や文化センター[2]を訪れることで、異なる文化や価値観に対する理解が深まり、広い視野を持つことが出来ました。文化センターでは、中国の歴史の歩みを学ぶことが出来ました。同じ歴史の出来事でも、その国によって捉え方は違います。自国だけではなく、他国の視点からも歴史を考えることが大切だと強く感じました。また、書道や切り絵、中国版画など、中国の伝統文化を体験し、とても貴重な経

参考資料 2

験となりました。尼山聖境[3]では、中国・山東省で生まれた孔子について学習しました。孔子の歴史はとても興味深く、山東省の人々の考えのルーツを学ぶことが出来ました。

参考資料 3

中国での研修を終えて、中国・山東省と山口県には多くの共通点があると感じました。それは、美しい自然に恵まれ、豊かな食材や歴史[4]がある点です。研修で感じた、中国・山東省の魅力を多くの人に伝え、山口県と山東省の相互理解の促進と有効関係の発展に繋げたいと思います。

参考資料 4

中国研修で得た国際的な視野と経験や、大学で学んでいる経済経営の知識を活用し、グローバルな社会問題を解決できるような人材になりたいです。これからも、多くの貴重な経験から学んだ知識を実践できる場を積極的に探し、地域に出て、実務経験を通じて自らのスキルを深化させたいです。また、国際交流の機会をさらに広げ、異文化理解の推進に積極的に貢献していきたいと思います。

中国・山東省への青少年交流団体派遣事業

山口県立大学
国際文化学部　国際文化学科
3 年

私は中国・山東省への青少年交流団体派遣事業に参加して、たくさんのことを学び、楽しみ、成長したと思います。ここでの成長は私にとってとても大きなもので、教員を目指す上で必ず自信になります。

私がこの事業に参加したのは、山口と山東省の教育の発展を目指すためでした。なぜなら、中学校ではなかなか触れることができない「異文化」に触れることができる授業をつくることで、子どもが楽しく学べる機会を提供したいと考えたからです。私はまだ教員免許を持っていませんが、「楽しく身に付ける」をモットーに、日々模擬授業を作成しています。

「孔子さんづくり」から学んだこと

山口または山東省で実際にやってみたいと考えたのは「孔子さん」を作る体験です。私たちは小麦を使って「孔子さん」を作りました。この体験は、子どものころにやった粘土遊びと似ていてとても楽しかったです。歴史上の人物として堅いイメージがある「孔子」をかわいらしく作れる楽しさを感じたと同時に、芸術としての難しさを体感しました。まず、子どもがこの楽しさを感じることができるという点で、孔子さんづくりに賛成です。

それに加えて、孔子さんづくりの際に周りの友だちと教えあうので、コミュニケーション能力を育むことが可能です。山東省の子どもたちは手作りの文化を伝えようとしてくれて、山口の子どもたちは馴染みのない手作りの文化を学ぼうとすることが期待されます。

しかし、私が感じた芸術の難しさは技術的な面だけではないと思います。私は孔子さんづくりの時、後ろの席に座っていました。それが原因で、作業中に講師さんが実演している様子を見ることができませんでした。また、各パーツを作るのに必要な小麦の大きさを表す紙がありましたが、小麦が平たいときの大きさなのか、球にしたときの大きさなのか、よくわかりませんでした。私だけでなく、周りの友だちも困惑している人が数人いました。

この様な事態は、子どもたちを対象に行うときも起こると予想されます。この問題を防ぐために、パーツのサンプルや完成した状態の孔子さんの像をいくつかの机に置いておくと分かりやすいと思います。そうすることで、話を聞きながらうまく作れるのではないかと思います。

他にも、周りの人とできているかどうかの確認をする時間を全体でとったらよいのではないかと思います。私たちは勝手に周りの人と確認をしていましたが、そうすると教室内がざわざわしてしまって、みんなが集中できない空気になってしまいます。「ここまでできましたか？」と尋ねたり、「できているか周りの人と確認しあってください。」というように時間を設けたりすると、体験する人にとって分かりやすくて良いと思います。

とはいえ、パーツのサンプルや孔子さんの完成像がないことで、人それぞれのユーモアが詰まった孔子さん完成しました。この素敵な結果から、すべてを完璧に分かりやすくしようとする必要はないと解釈することもできます。

孔子さんづくりの中で、「教える」という視点から以上のような気づきがありました。子どもが手作り文化体験を行うことはとても楽しくて、子どもにとっても効果的な活動だと思います。しかしその活動において、いくつかの留意点もあると思います。

私はこの活動が実際に行われるとき、講師さんと子どもたちが快適に孔子さんを作れるようにプログラムを計画したり、現場のサポートをしたりしたいです。

一週間の思い出×「教育」

「英語教員の役割は何だろうか」という問いについて考えることがあります。

私は今まで、英語教員の役割が全く分かりませんでした。なぜなら、言語を習得するにはその言語を日常的に話す環境が必要だと考えていたからです。そのような日常を教員が作ることは不可能だと考えていたので、英語教員は何のために必要なのだろうと考えていました。しかしこの事業に参加したことで、自分なりの答えを見つけることができました。

英語教員の役割の一つは、子どもたちの将来の可能性、興味の幅を広げることだと考えました。

振り返ってみると、私が大学で中国語を選択したいと思ったきっかけは高校時代の先生にありました。先生が授業中に中国語で話したときに、かっこいいなと思ったことがきっかけです。私の経験ではありますが、先生が話すことは子どもの興味・関心に直接影響することに気づきました。

そんな私はこれまで、国際文化学科であるにも関わらず海外に行った経験がありませんでした。だから、子どもに「海外に行ったことあるの？」と聞かれるときはいつもないと答えていて、何も教えてあげることができませんでした。せっかく教育について勉強しているのに、子どもの力になれなくて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

しかし今回の事業に参加して中国を訪れ、たくさんの楽しい経験をしました。

例えば、世界的に有名な青島ビールの博物館に行って歴史を学んだり、ビールを試飲したりしました。普段からお酒を飲む習慣がないので、味の違いに気づくことができなかったのが残念です。

とても有名な山である泰山にも登りました。中国語の授業の時に頂上からの写真を見せてもらって絶対に行きたいと思っていたので、行くことができて良かったです。お年寄りが登るのと同じ、一番簡単なルートで登ったのも良い思い出です。

また、日本では見ないような料理をたくさん食べました。本格的なスパイスの味がする料理や予想以上に辛みの強い料理があったりするので、毎日、毎食、ご飯を楽しみにしていました。

楽しい経験のほかに、日本とは違う雰囲気を感じることもありました。例えば、トイレの仕組みの違いです。日本では必ずトイレットペーパーがありますが、中国ではないところも多かったです。水が詰まることも多いと聞いたので、少し不安な気持ちもありました。

他にも、道路でのマナーが違うと思いました。日本ではほとんどクラクションを使うことがないと思います。しかし中国では、常にクラクションの音が飛び交っています。怒っているわけではないみたいですが、それでも道路を歩くときは怖かったです。

この様な素敵な経験をしたことで、子どもに伝えられる話ができました。その話を聞いて、「海外旅行に行きたい」「将来は海外で働きたい」「海外は無理かもしれない」など、子どもたちはいろいろ考えてくれると思います。私は子どもたちが将来の仕事を考える手助けをしたり、興味の幅を広げてあげたりしたいです。そのために、もっといろんな国に行ってみたいと思うようにもなりました。

わたしの夢

私がこの派遣事業に応募したきっかけは、山口と山東省の教育の発展に加えて、自分を変えるためでもありました。

私は大学生になって、毎日だらだらと生活していました。TOEIC のために勉強をしなければならないし、3 年になった今では教員採用試験の勉強を進めていないといけません。しかし、全く勉強しておらず、好きな YouTube を見たり映画を見たりする毎日です。

もちろん毎日欠席することなく学校に行き、課題も確実に提出し、バイトをして生活費をまかなっています。しかしこれは最低限のやるべきことであって、何も自分のためになってないし、応援してくれる家族にも失礼だと思いました。

そんなモヤモヤした気持ちを抱えながら生活を送っていたところ、この派遣事業の募集を見つけました。

そしてこの派遣事業に参加したことで、たくさんの素敵な出会いがありました。中国では 1 週間、二人のガイドさんにお世話になりました。ガイドさんたちはとても流暢な日本語を使って私たちを引率してくださいました。楽しく観光したり交流したりできたのは、ガイドさんのおかげです。

また、山口県の学生に加えてフリーバード関西支部の学生とも一緒に行動しました。学生の中には中国語を話せる人も多くいて、とてもかっこよく見えました。中国語を話せる学生は、山東大学に行ったときに通訳のような役割をしてくれたり、中国語の表現を教えてくれたりしました。私は参加する前、中国語を話せないのに参加していることをからかわれたらどうしようと不安だったので、優しく教えてもらえて安心しました。

ガイドさんや一緒に行動した学生のおかげで、1 週間楽しく過ごすことができました。だから私も努力して何かを成し遂げて、周りの人を笑顔にしたいと強く感じました。今の私の本業は勉強することなので、特に英語力の向上を目指して頑張りたいです。

最後に、このような充実した学びができるように準備、引率してくださった方に感謝を伝えたいです。ありがとうございました。